

## ◆ 平成30年度 鳴門市 各部長実行宣言（年度末報告） ◆

（ 企 業 局 ）

企業局長	山内 秀治
企業局次長	三居 康伸

達成度区分	◎：達成(100%以上) ○：ほぼ達成(80%以上 100%未満) △：未達成 ×：未着手
-------	---

No	重点項目	目標(何を、どうする)	各取組の達成度	達成状況等
1	水道料金の改定と広報	① 水道事業ビジョンや経営戦略に掲げる施策等を着実に推進し、今後も経費の圧縮を図るとともに、不足する経費の財源確保を図るため、改定率や実施時期等を検討し、料金改定を行う。	◎	5月末に水道事業審議会答申を受け、6月から8月にかけて水道事業の現状と答申内容に関する説明会を17回実施した。その後、説明会等の意見を踏まえ、料金改定等に係る条例改正案を第3回定例会に上程し、議決をいただいた。4月1日からの約20%の増額改定に向け、広報など、テレビ広報、検針時チラシ配布等により利用者へ料金改定に関する周知を行った。
	【総括達成度】	◎	◎	・夏休みに「浄水場親子見学会」を開催し、場内見学や浄水体験を行った。 ・「水道事業モニター会議」を3回実施し、浄水場見学のほか、水道事業の現状と課題と今後の取り組み等について説明を行い、意見交換を行った。 ・「鳴門のまつり」に水道事業PRブースを出展し、水道事業に関するパネル展示及び水道管を使った水鉄砲づくりを行った。
2	水道事業ビジョンと水道施設の耐震化の推進	① 「水道事業ビジョン」や経営戦略に掲げる施策等を着実に進め、経営の健全化に努める。	◎	水道料金等の改定にあたり、向こう5年間の財政計画の見直しを行うとともに、水道事業審議会にて、水道事業ビジョンの進捗状況について報告を行った。 水道事業の広域化に関する具体的な検討を行うとともに、厚生労働省及び総務省に交付金等広域化事業への財政支援に関する要望を行った。水道事業に関する調査研究を行うため、本市と板野郡5町で構成する勉強会を設置した。
	【総括達成度】	○	○	水道事業ビジョンに掲げる水道施設の耐震化を進め、送配水施設耐震化計画に基づく水道管路の更新・耐震化を行うため、生活基盤施設耐震化等交付金を活用し、老朽管更新事業や水道管路緊急改善事業などを施行し、また、交付金の活用に重点を置き、採択基準を満たす交付金事業の要望を行った。
3	共同化による浄水場更新事業の推進	北島町との協議の場として設置した協議会及び幹事会を通じて連携を密にし、発注方式の検討や官民連携の可能性及び費用負担割合等についての検討を進める。	◎	・共同浄水場の事務局を浄水場に移し、幹事会を6回、協議会を2回開催した。年度末までに幹事会、協議会各1回開催予定。 ・共同浄水場基本計画を年度末までに策定。基本計画をもとに年度末の協議会にて、発注方式、官民連携の方向性を示す。 ・費用負担割合について、共同部分は鳴門市75:北島町25。業務委託のうち、各自治体それぞれに必要なものについては鳴門市50:北島町50で合意。 ・建設用地の取得は完了。 ・運転管理体制については、施設の共同化までは現状の管理方法を継続、共同化後は、北島町の浄水場については無人化し、共同浄水場で管理を行う。
	【総括達成度】			◎

◆ 平成30年度 鳴門市 各部長実行宣言（年度末報告） ◆

（ 企 業 局 ）

企業局長	山内 秀治
企業局次長	三居 康伸

達成度区分	◎：達成(100%以上) ○：ほぼ達成(80%以上 100%未満) △：未達成 ×：未着手
-------	---

No	重点項目	目標(何を、どうする)	各取組の達成度	達成状況等
4	電話投票売上確保に向けたモーニングレース等の実施	薄暮・モーニングレースへ参入し、他場と重ならない発売時間に発売することで継続的・安定的に収益を確保する。	◎	4月から9月まではレース時間帯を遅くする薄暮レース、10月から3月までは、8時半頃からレース開催を行うモーニングレースを実施した。一般戦の1日平均で、薄暮レース1億2千万円、モーニングレース1億8千万円を売り上げ、昨年の一般戦平均1億円を大幅に上回る収益を確保できた。また、ねらいである電話投票売り上げは、総売上に占める電話投票売上割合で、10%以上伸びている。
	【総括達成度】 ◎			
5	ランドマーク化に向けたプレイパーク整備と地域開放型施設のさらなる利用促進	① プレイパークを整備することにより、幅広い世代へのアプローチを行い市内外からのさらなる誘客を図る。	◎	11月17日にスポーツパーク「UZUパーク」をグランドオープンした。オープニングイベントはボートレース振興会と連携し、世界で活躍するプロスケートボーダーを招聘し800人の来場があった。3ヶ月足らずの2月10日には1万人来場を達成し、来場している車は県外ナンバーも多く、親子連れ、若いカップルなども多数来ていただいている。
		② 地域開放型施設を使った様々な催しやイベント等を開催し、ボートレース鳴門のPRおよび誘客を図る。	◎	芝生広場では、徳島ヴォルティスが月2回、4歳から10歳までの児童を対象にサッカースクールを開催、なるちゃんホールでは「なると新喜劇」や映画の上映などを実施した。ROKUでは女性をターゲットとした体験型イベント「ボレ女会」を3回、電話投票会員ツアーを7回開催し、延べ400人が参加したほか、研修やスポーツ、音楽ライブなどさまざまな用途で一般貸出しを行い、平成31年2月末時点で、なるちゃんホールは60件、述べ42827人、ROKUは125件、述べ2849人にご利用いただいた。
	【総括達成度】 ○	③ プレイパークエリア、まちづくりエリア、本場が連携した施策を展開し相乗効果による誘客を図る。	○	ボートレース鳴門で「ねこねこフェスティバル」を開催、「あらたえの湯・なるみ丸」とブース出展などで連携し、延べ7500人が来場した。また、「あらたえの湯・なるみ丸」がボートレースの冠レースを開催したり、レース開催時の本場来場者向けに「あらたえの湯・なるみ丸」で利用できる割引券を、「あらたえの湯・なるみ丸」の利用者向けにはレース場入場無料券を配布しているほか、「UZUパーク」にあるサイクルステーション、「あらたえの湯・なるみ丸」、レース場でそれぞれのパンフレットを設置、「UZUパーク」にボートレース実況用のモニターを設置するなど、相互利用を促している。